

報告事項エ

平成30年度「英語教育実施状況調査」の公表結果及び英語力を高めるための今後の方策について

平成30年度「英語教育実施状況調査」の結果及び英語力を高めるための今後の方策について、別紙のとおり報告します。

平成31年4月18日

鳥取県教育委員会教育長 山本 仁志

平成 30 年度「英語教育実施状況調査」の公表結果及び英語力を高めるための今後の方策について

平成 31 年 4 月 18 日
高等学校課

1 「英語教育実施状況調査」の目的

「英語教育実施状況調査」とは、文部科学省が、全国の公立小学校、中学校及び高等学校等における英語教育に係る具体的な施策の状況について調査し、今後の施策の検討に資するとともに各都道府県教育委員会における英語教育の充実や改善に役立てるために毎年実施するもの。

2 本県の概要

- 「英語担当教師の英語力」について、中学校教師及び高等学校教師の英語力の上昇率が高い教育委員会の例及び取組例として、鳥取県が取り上げられた。

※別添資料（文部科学省報道発表用 平成30年度「英語教育実施状況調査」の結果（概要）より）

- 「英語担当教師の英語力」について、高等学校教師の英語力は全国 1 位。
- 「生徒の英語力」は、中学校で微増。「英語 4 技能ステップアップ事業」等をとおして、中学校、高等学校ともさらに指導改善を図ることが必要。

【英語担当教師ならびに生徒の英語力の状況】

調査項目	H30達成度	全国順位	国の目標値	H29達成度	全国順位
英語担当教師の英語力 ^{※1} の状況（高等学校）	97.5%	1位	75%以上	83.3%	7位
英語担当教師の英語力 ^{※1} の状況（中学校）	35.8%	20位	50%以上	28.2%	36位
生徒の英語力の状況（高等学校） ^{※2}	33.3%	41位	50%	36.5%	34位
生徒の英語力の状況（中学校） ^{※3}	37.1%	33位	50%	35.7%	35位

※1 英検準 1 級程度以上（CEFR B2 レベル以上）

※2 英検準 2 級以上相当（CEFR A2 レベル以上）

※3 英検 3 級以上相当（CEFR A1 レベル以上）

3 分析

（1）英語担当教師の英語力の状況

- H29～30 年度に実施した「教員の英語力向上のためのセミナー及び外部試験活用事業」に一定の成果が認められる。

（2）生徒の英語力の状況

- 中学校、高等学校とも、全国の上昇度に比して伸び悩んでいる。
→（高等学校の分析）・生徒の英語力の把握について厳しく見立てていると思われる学校がある。
・普通科高校と総合学科・専門高校との差が拡大しつつある。
- 国の中央研修を受講した「英語教育推進リーダーによる指導力向上研修（中学校、高等学校）」等で伝達・演習された 4 技能統合型の指導が、まだ効果的に実践されていない。

4 課題

（1）到達目標に向けて、生徒が着実にスモールステップを積み重ねられる指導が不十分

- 具体的な指標形式の目標に応じた時期ごとの達成状況を把握しながら、生徒が「英語を使って何ができるようになるか」という観点に立った指導を強化する必要がある。

（2）生徒が、4 技能をバランスよく活用して取り組む実践的な言語活動量が不十分

- 生徒が英語力を伸ばすには、「発表・討論・交渉」等、基礎的な知識・技術を活用し、複数の技能を統合しながら取り組む言語活動等を豊富に体験させることが重要である。

（3）教員の、技能統合型授業に関する指導力向上が必要

- ペア・ワークやグループ活動を含めた学習・指導方法やパフォーマンステスト等の内容及び評価方法等、4 技能統合型授業の実践に関する改善が必要である。

5 改善の方向性と今後の取組

(1) 中学校

- ・話すこと（やり取り）を含む4技能統合型指導を中心とした「英語4技能ステップアップ事業」
- ・生徒が鳥取県内で実践的に英語を使える機会の創出と拡充
- ・客観的データ（外部試験スコア）に基づいて成果を検証する研究方法及び指導改善の普及
- ・市町教育委員会や中学校の教育研究団体と連携した成果普及

(2) 高等学校

- ・4技能統合型指導と評価の一体化及び大学入試改革にも対応する指導実践に係る教員研修の実施
- ・研究校や重点校のPDCAサイクルによる指導改善及び効果的な指導事例の全県への普及
- ・ICT等を活用した生徒の英語力向上事例の創出と全県への普及・還元